

令和５年度 北海道開発局事前評価技術検討会 議事概要

1 日 時 : 令和５年６月２９日（木）９:３０～１１:３０

2 場 所 等 : 帯広開発建設部 会議室

3 対象地区 : 国営かんがい排水事業 「篠津運河下流地区」
国営かんがい排水事業 「清川二期地区」
国営総合農地防災事業 「川湯跡佐北地区」
国営総合農地防災事業 「川湯跡佐南地区」

4 委 員 : 北室 かず子 フリーライター・編集者
耕野 拓一 帯広畜産大学 教授
山本 忠男 北海道大学大学院農学研究院 准教授
義平 大樹 酪農学園大学 教授

5 議 事

北海道開発局事前評価技術検討会を開催し、令和６年度事業着手要求地区である国営かんがい排水事業「篠津運河下流地区」同「清川二期地区」及び国営総合農地防災事業「川湯跡佐北地区」同「川湯跡佐南地区」の事前評価に当たって、評価資料（案）の内容、判断根拠等について、各委員から意見を求めた。

質疑応答の概要は以下のとおり。

〔１〕国営かんがい排水事業「篠津運河下流地区」

（委 員）揚水機場を統廃合して集中管理を行えば効率的にはなるが、災害に対する危険分散の観点ではどうか。

（開発局）災害に対するリスク管理として、八幡揚水機場内には、３台のポンプをそれぞれ独立して設置する計画であり、ひとつのポンプに不具合があっても、ある程度危険分散は可能と考えている。

（委 員）国産飼料としての子実用トウモロコシの増産は重要である。事業効果として、どの項目で計上しているのか。

（開発局）主に作物生産効果、国産農産物安定供給効果として計上している。

〔２〕国営かんがい排水事業「清川二期地区」

（委 員）排水改良事業では、品質向上効果を計上していない。今般の現地調査時に対応頂いた農家から、農地が湛水することで肥料が流され、高収益作物である長いものの先端が肥料を求め二股になる等いびつな形になると、商品価値が無くなるなどの話も伺った。事業効果として計上できるよう、データを蓄積してはどうか。

（開発局）御意見として承った。今後、定量的に把握可能か検討する。

〔３〕国営総合農地防災事業「川湯跡佐北地区、川湯跡佐南地区」

（委 員）沈砂池は定期的に土砂上げするのか。

（開発局）沈砂池の施設規模は、１年間の堆砂量から決定しているため、１年に１回程度

の浚渫が必要になる計画である。なお、浚渫は弟子屈町が主体となり実施するが、沈砂池の設置により堆砂箇所が限定されるため、維持管理に係る労力や費用が軽減される見込みである。

(委員) 生食用ばれいしょの生産には生産に係る技術指導が必要であるため、増産に当たっては関係機関との連携が重要と考えるが、必要な営農支援体制は構築されているか。

(開発局) JA、町及び地域の普及センターが構成員となった営農支援体制を構築しており、事業実施後も連携を継続していくこととしている。

[4] 各地区共通事項

(委員) 「他産業への経済波及効果額」の算定において、産業連関表の逆行列係数の列和の値 (2.047277) が4地区とも同一となっているが、本来は水田や畑作、酪農といった営農類型によって値が異なるはずである。営農類型ごとの値を適用できれば、より正確な波及効果の算定ができると思うので検討いただきたい。

(開発局) 御意見として承った。今後、その様な整理が可能か検討する。

(委員) 降雨形態の変化等気象変動に対して、農家個々で対応できることは限られるので、地域農業が目指す姿を実現するためには国営事業の実施が必要である。

(委員) 持続可能な農業の実現に向けては、地域住民の理解が大切である。市町村の広報誌等を活用し、農業農村整備事業が持続可能な農業の実現に貢献していることをPRするなど、地域住民の理解醸成に向けた幅広い取り組みをお願いしたい。

6 全体意見

事前評価の評価項目である事業の必要性、効率性、有効性、優先性、公平性及びその他評価項目は、適切に評価されている。

検討の対象となったいずれの地区とも、早期に事業を実施する必要性が認められる。

以上